

【検証委員会聴取記録】

聴取日:平成29年5月14日(日)11:00~12:00

記録係:手塚昌人(総務課)

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
事務局	紹介	・委員及び執行部を紹介		
戸田委員長	挨拶	・責任追及の場ではない。事実確認を行い、今後こうした事故が起きないようにするためのものである。		
戸田委員長	質問	・事故当日の学校の対応について、説明願う。	堀江教頭	・事故当日の対応について、当日の配布資料に基づいて説明。(途中、植木前校長が補足説明)
戸田委員長	質問	・今回の事故に限らず、このような事故が発生した際の連絡体制について、確認したい。	堀江教頭	・こうした大きな事故が、学校外で起きた場合、現場にいる顧問が保護者に連絡することになっている。もちろん、学校にも連絡が入ってくることになっている。
			植木前校長	・学校の体制として、命にかかわるものは、すぐに教頭に連絡することになっている。 なお、命にかかわるものでない場合で、土日の活動の場合は、月曜日の朝に伝えることになっている。
			堀江教頭	・今回の場合は、消防署から情報を得て、学校から保護者に連絡した。 ・今回の場合、消防と猪瀬教諭からの情報に違いがあったので、すぐに保護者への連絡ができなかった。
大西委員	質問	・事故当日、那須塩原警察署から、生徒と保護者の携帯電話番号を集めてほしいと依頼されたと説明があったが、猪瀬教諭は情報として生徒と保護者の連絡先を把握していたか、確認したい。		
			堀江教頭	・事故後、パソコンで確認したものだが、登山の参加申込書をもとに作成した(携帯ではなく、家の電話番号が記載された)連絡先一覧がある。
大西委員	質問	・その資料(参加申込書 連絡先一覧)は、どこにあるか	堀江教頭	・未提出の資料なので後で提出する。
戸田委員長	質問	その情報は、当日猪瀬教諭は持っていたか、確認したい。	植木前校長	・持っていたかどうかは不明。
西村委員	質問	・パソコンには入っていたようだが、学校は一覧表がすぐに見られる状況ではなかったという理解でよいか。	植木前校長	・そのとおりである。
岸委員	質問	・第一報は猪瀬教諭ではなかつたということでよいか。	植木前校長	・猪瀬教諭ではなかつた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
岸委員	質問	・第一報が猪瀬教諭ではなかったということについて、どういう事情であったと把握しているか、確認したい。		
			植木前校長	・猪瀬教諭は、ロッジで搬送された生徒の顔と名前の確認をしていたので、連絡が取れる状況ではなかったと、聞いている。
戸田委員長	質問	・学校は、現場の顧問からではなく、間接的に警察や消防などから情報を得ていたということになるか。		
			植木前校長	・そのとおりであるが、現場の顧問とも何度かやり取りはしている。
大西委員	質問	・訓練ではあるが、登山活動を行うにあたり、計画書（メンバー、連絡先）を作って、留守本部（学校になると考えられるが）へ提出していくことになると思うが、どうなっていたか、確認したい。		
			植木前校長	・（提出された資料を提示し）、この計画書のみであった。メンバーは記載されているが、連絡先の記載はない。
大西委員	質問	・講習会全体の計画書（示されたもの）はあるが、大田原高校として作成する計画書（日程、食糧、装備品、活動内容）については、どのように学校に伝わっていたか、確認したい。		
			植木前校長	・そのような計画書は見ていない。
			田代課長（スポ振）	・大田原高校が個別の計画書を作っているかは確認していないが、一部の学校では「しおり」のような形で作成しているものがあると聞いている。
戸田委員長	質問	・3日目の1班については、若林教諭と毛塚教諭が入れ替わっているが、その変更をいつ、どのように把握したか、確認したい。		
			堀江教頭	・講習会の少し前に把握していた。若林教諭は、生徒会の担当であることから、27日の新入生オリエンテーション業務のために変更になっている。
戸田委員長	質問	・そのことが、計画書に反映されていないということですか。		
			堀江教頭	・計画書には反映されていない。
戸田委員長	質問	・毛塚教諭の顧問歴については、学校としてどう把握しているか、確認したい。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			植木前校長	・本校に赴任するまでは山岳部顧問の経験がない。剣道部と兼務し、普段は剣道部の第2顧問として指導に当たっていた。 山岳部の土日の大きな行事（大会等を含む）にはすべて参加（白根山（冬）、朝日岳（雪あり）、北岳）していたと思う。
戸田委員長	質問	・若林教諭が3日目には帰ること、代わりに1班を担当することを毛塙教諭は把握していたことになるか。	堀江教頭	・把握して参加しているはずである。
戸田委員長	質問	・参加した生徒のうち、負傷した（大高の）生徒の状況はどうなっているか、確認したい。	堀江教頭	・当日配布資料P3に基づいて説明。
戸田委員長	質問	・現段階で、通院している生徒はいないか。	堀江教頭	・■■■（ふくらはぎの筋肉断裂、松葉づえ）は、まだ通院中である。 ・■■■は、週1回⇒月1回の通院となつた。
岸委員	質問	・足が麻痺しているとあったが、後遺症か。	堀江教頭	・■■■という生徒だが、血栓が徐々に小さくなってきて、神経へ圧迫が少なくなってきており、回復してきている。
戸田委員	質問	・死亡した生徒については「心肺停止」の記載があるが、複合的な要因として、肋骨骨折や低体温症などについては把握しているか。	植木前校長	・聞いていない。
戸田委員長	質問	・全く負傷しなかった生徒はいるのか。	植木前校長	・部員の中には不参加1名、前日下山した1名の計2名がいるが、参加した生徒は記載のとおりである。
戸田委員長	質問	・活動内容の変更については、現場と専門部、高体連、学校とで、どういう報告、連絡、相談体制になっているのか、確認したい。	植木前校長	・学校には、無事に帰った時に連絡がある。過去に調理中の火傷をした時も連絡を受けたことがある。活動内容の変更等について相談を受けたことはない。
戸田委員長	質問	・今回のラッセル変更したことは、いつ把握したか。	植木前校長	・事故後、報道により把握した。
戸田委員長	質問	・大田原高校の生徒の事故後の様子と学校の対応について、説明願いたい。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			植木前校長	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育課から、生徒のケアを考えること、カウンセラーをすぐに派遣することの連絡があった。 3月29日に全校集会を実施。生徒は落ち着いた様子で話をよく聞いていた。その後もパニックになった生徒はない。
			堀江教頭	<ul style="list-style-type: none"> 29日の説明会では、生徒及び保護者を対象にスクールカウンセラーが話をした。 生徒にはアンケートの実施及び担任による分析を行い、配慮を要する生徒の確認をし、個別に対応した。4月末段階で18名がカウンセリングを受けた。 2日目に下山した生徒が1週間休んだが、先週から少しづつ登校するようになった。担任も家庭訪問をしている。
岸委員	質問	・アンケートを実施したのはいつか。	堀江教頭	・4月10日の始業式に、クラスで配布して実施、担任が回収した。（資料P13に記載あり）
岸委員	質問	・高体連と学校との関係を確認したいが、今回の行事は、高体連主催なので、学校は報告を受けるという認識でよいか。	植木前校長	・私は校長であり、登山専門部長でもあるので、知っていなければならない立場にある。
岸委員	質問	・高体連でも様々な専門部があるが、登山専門部については、緊急連絡網（保護者あて）の作成や管理は、どういう扱いになっていたか。	植木前校長	・各学校に任せた状態になっている。
岸委員	質問	・大田原高校としては、緊急連絡網は作成していないということでおいか。	植木前校長	・緊急連絡網として作成したものがあるか、わからない。一覧表しか見ていない。
岸委員	質問	・当日12:40に職員打合せを行ったようだが、これは全職員であるか。	植木前校長	・電話や正門での対応者を除く全職員である。
岸委員	質問	・これは事故発生時の決まり事なのか、緊急事態だからなのか、確認したい。	植木前校長	・緊急だからである。
岸委員	質問	・何かあったら、まずは教頭に連絡が入り、緊急かどうかの判断をし、職員を招集するという理解でよいか。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			総務主幹	・この日は勤務日なので、不在の職員に対して招集をかけるという意味ではない。 ・27日は新入生オリエンテーションなので全職員が出勤していた。
大西委員	質問	・通常の学校行事（遠足等）と講習会とでは違うという話があつたが、山岳部の通常の登山について、個別の活動と今回のケースでは形態が違うという認識でよいか、確認したい。	植木前校長	
大西委員	質問	・大会であろうが、講習会であろうが、参加するにあたっては計画書を作成し、校長が許可することになると思うが、どうなっていたか、確認したい。	植木前校長	・大会と大会でないものはちょっと違うという認識である。
戸田委員長	質問	・顧問職員については、出張伺いで手続きをしていたということか。	植木前校長	・（資料を提示しながら）この講習会の計画書しか把握していなかった。
大西委員	質問	・顧問が詳細な計画書を作成していたとしても、そこまでは求めっていないという理解でよいか。	植木前校長	・そのとおりである。
戸田委員長	質問	・今回、「しおり」のような詳細な計画は作成していない、作成していないものは確認できないという理解でよいか。	植木前校長	・そのとおりである。
大西委員	質問	・通常の山岳部単独での参加の場合は、詳細の計画書が提出されているのか、確認したい。	植木前校長	・そのとおりである。
西村委員	質問	・通常の山岳部の活動は頻繁に行われていたのか、確認したい。	植木前校長	・もう少し詳しいものが提出されていたものと思う。時間や場所などが明記されたものであると思う。
戸田委員長	指示	・その3つの活動の計画書について、学校から事務局あてに提出いただきたい。	植木前校長	・学校（山岳部）独自のものは年3回あったものと思う。新入部員歓迎（那須山）、夏（北岳）、今回の講習会の3つが主なものである。このほかは大会となる。
大西委員	指示	・様々な大会で、計画書は審査の対象になっており、非常に重要視されている。通常の活動でどうなっていたのかは、またお知らせいただきたい。	植木前校長	・了解した。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
戸田委員長	質問	・計画書は学校から提出していくことでよいか。	田代課長 (スポ振)	・審査会をしているので、計画書は提出されていると思われる。
戸田委員長	指示	・スポーツ振興課から提供してほしい。	堀江教頭	・家宅捜索で、ほとんどの資料を提出しているので、学校には残っていない状況である。
戸田委員長	質問	・学校単独の活動は計画書に目を通していたという理解ですか。	植木前校長	・学校単独の活動は審査会で許可されて活動となるが、今回は高体連ということで免除されていたようである。
西村委員	質問	・今の山岳部の状況はどうなっているか。	堀江教頭	・活動は自粛している状況である。 ・一人一人が体力トレーニングを行ったり、ミーティングを行ったりしている。
戸田委員長	質問	・今、部員は何名になっているか。		・1年生が2名入って、合計7名となっている。

【検証委員会聴取記録】

聴取日:平成29年5月14日(日)13:00~

記録係:吉成 卓(スポーツ振興課)

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
戸田委員長	挨拶	責任の追求とか、誰かを糾弾するようなことではない。このような事故が二度と起こしてはならない。原因究明、再発防止に向けた提言につなげていこう。		
戸田委員長	質問	高体連、登山専門部、登山計画審査会について説明を願う。	橋本前高体連会長 植木前専門部長 猪瀬前委員長 田代スポーツ振興課長	資料に基づき高体連の組織等について説明。 資料に基づいて登山専門部の組織について説明。 資料に基づいて、高体連登山専門部事業計画について説明。 資料に基づいて登山計画審査会について説明。
戸田委員長	質問	春山安全登山講習会について説明を願う。	猪瀬前委員長	・春山安全登山講習会は、30年近く同じ形で実施している。委員長を引き継いで6年目だが3月下旬、春休みに入ってすぐに実施している。 ・1日目座学ののちスキー場へ移動し幕営、2日目雪上訓練、7時30分スタート10名程度5班編制で郭公沢という峠の茶屋の少し上の斜面を使って雪上訓練を14時頃まで行った。 ・3日目は例年なら7時出発で夏道を使って茶臼岳山頂を目指す訓練を行っているが今年は雪が多かったので中止し、スキー場周辺での歩行訓練に変え事故にあった。
戸田委員長	質問	春山安全登山講習会実施状況について抜けてている年度もあるが。	田代スポーツ振興課長 猪瀬前委員長	・資料は登山部報より読み取れるもののみ拾った。 震災の年だけ中止した。
戸田委員長	質問	7年前に雪崩のような事故があったとの情報がある。当時の状況がわかる方はいるか。	猪瀬前委員長	・当委員長ではなかったが講師として参加していた。場所は郭公沢で、私は別の班で遠くから見ていた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			後藤教諭 (さくら)	<p>・当時大田原高校で顧問をしていた。場所は郭公沢でもかなり上部の方である。時間は11時頃と記憶している。大田原高校の6名を教員3名ぐらいが引率していた。沢の上部で講習を行っていたが、下へ降りるときに傾斜が変わる部分だったので、ロープを出してロープで通過させる訓練を行った。若手の先生が先に下ってロープを張ろうとした際に、表層10cmぐらいのところが雪崩れた。下方にいた班の生徒と教員が雪崩れた雪に巻き込まれ流された。幸いにも怪我人はなかった。新聞で一部雪庇という報道もあったが雪庇ではなかったと思う。表層雪崩だ。雪崩れた瞬間は私は傾斜が変わったので直接は見ていないが、破断面があつてそこから流れた。下の方にいた生徒と先生はちょうど休憩中で座っているところを流され、ピッケルが何本か埋まってしまった。その後雪の状態に注意しながら別な場所で講習を続けた。次の日は予定通り茶臼岳に登ったと記憶している。雪崩の情報は専門部で共有し、雪崩があつた斜面での講習はその後行っていない。その際、高体連の本部や県教育委員会への報告はなされてなかった。滑り台を流れるような状態で流された。それ以前にもそのあたりで講習は行われていたが、幸いにも春先のしまった雪だったので雪崩は起きなかった。その年は前日ぐらいに降雪がありその降雪の部分が流れたと思われる。</p>
戸田委員長	質問	高体連・現場・学校ではどの様に連絡体制をとっていたのか。	橋本前高体連会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高体連には35の専門部があるので、重大事象があった場合、委員長から高体連の理事長に連絡が入り、その後高体連会長に連絡する。 ・委員長は専門部長も報告をする。 ・正確な文章としては無い。
戸田委員長	質問	保護者へ連絡は各学校に任せているのか。	橋本前高体連会長	<ul style="list-style-type: none"> ・引率教諭が各学校から来ているので必ず学校へは通報はなされる。
			植木前専門部長	<p>まずは委員長から部長に報告することになっている。保護者へは担任か引率顧問から行うが、はつきりとは決めていなかった。</p>
戸田委員長	質問	登山計画審査会に講習会が審査の対象になっていない理由は何か。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			田代スポーツ振興課長	審査会も講習会もかなりの年月が経っている。高体連の専門部が主催している計画については審査会を通っていないのが慣例。多くの日を通して計画されているものなので大丈夫であろうということと聞いている。
			橋本前高体連会長	大会には補助金がついているので報告の義務がある。講習会は専門部が独自に開催している。今回は登山では無く訓練を目的とした講習会だったので審査会に申請していなかったのでは。
西村副委員長	質問	各講習会が終わった後に報告はされてないのか。		
			橋本前高体連会長	講習会等は年間計画には記載されている。大会は事故報告書は存在するが、研修会・講習会についてはない。
大西委員	質問	・緊急時の体制は事前に準備していたのか ・警察・消防への通報計画はどうなっていたか。		
			猪瀬前委員長	・要項を事前に那須の派出所に提出した。 ・緊急連絡網は作成しているが、今は機能しなかった。
岸委員	質問	保護者への連絡体制はどうだったか。	猪瀬前委員長	各学校に任せていた。
岸委員	質問	・年間計画はいつ、誰が作成しているのか。 ・要項の承認どこでされるのか。		
			猪瀬前委員長	・講習会の年間予定は前年の11月の専門委員会で作成し、次年度の総会で決定している。 ・取りまとめ責任者が事業ごとに要項の原案を作成している。専門委員会で確認し、総会で決定している。
西村副委員長	質問	平成22年の講習会には弱層テストが入っていたようだが、毎年必ずやりましょうというものではないのか。		
			猪瀬前委員長	例年各班で講師の先生方がやってくれていると思うが資料には入っていない。
大西委員	質問	7年前の10cmぐらいの雪崩で、どのくらいの幅で、どのくらいの長さであったのか。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			吉澤教諭 (さくら)	標高は1600mぐらいの高さ。ザイルを張って雪崩が起きた地点とほぼ同じ目線で目撃した。沢の最上部の表層10cmぐらいの雪が、ほぼ垂直に近い斜面をどさっと落ちて、細く長く、下へ下へと流れていった。休憩中の班のザックや、ピッケルなど荷物が流れしていくのが見えた。ピッケル4本ほどが回収できなかった。少なくとも2, 3名の生徒が座っている状態のまま、滑り台を滑るような姿勢で5、60mぐらい流れた。上から見る限りでは、上半身まで埋まっていた生徒はいなかった。全長は100mから150mぐらい。雪崩の幅は2から6mぐらい。発生は11時30から12時9分の間。
大西委員	質問	・地図ではかなり急な斜面に見えるが。 ・天候はどうだったか。 ・降雪はいつか。		
			吉澤教諭	急になったところでザイルの必要はあった。当日の朝はマイナス6度。風は弱く、日当たりの良い斜面、雪はザラメ状態。降雪は少なくとも前日ではない。

【検証委員会聴取記録】

聴取日:平成29年5月14日(日)14:30~

記録係:熊木則裕(学校教育課)

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
戸田委員長	質問	事故当日の各班の動きについて確認したい	猪瀬 本部 (大田原) 菅又 1班 (真岡) 渡辺 2班 (真岡) 澤村 3班 (矢板東) 高秀 4班 (矢板東) [] 4班 (矢中央) 小林 5班 (真岡女) 池間 (宇都宮) 本嶋 (那清峰) 手塚 (那清峰)	資料に基づき本部の動きを時系列に説明 資料に基づき 1班の動きを時系列に説明 資料に基づき 2班の動きを時系列に説明 資料に基づき 3班の動きを時系列に説明 資料に基づき 4班の動きを時系列に説明 資料に基づき 5班の動きを時系列に説明 補足なし 補足なし 補足なし
戸田委員長	質問	事故当日のレストハウス前での指示（具体的な言葉）、内容等について確認したい。	渡辺 (2班)	全体的な指示は菅又（真岡）、猪瀬（大田原）が行った。全体的な指示の中で、危険箇所の説明がなかったので、私が「スキー場の奥の左側の斜面は危険である」ということを伝えた。
			猪瀬 (本部) 菅又 (1班)	菅又（1班）が指示を行った。 3人（猪瀬、渡辺、菅又）で相談して講師全員、そして生徒を含む全体に以下の内容を伝える。 ①活動内容の変更 ②足跡についていないところでの活動 ③活動場所はスキー場ゲレンデ及び樹林帯で行うこと ④スキー場奥の左側の斜面は危険であること ⑤歩行訓練（ラッセルという言葉を使用したが、キックステップを使いながらの歩行訓練の意味合い）を行うこと。
大西委員	質問	ノートレースの雪面を歩くことをラッセルとも言うので、菅又先生が指示した内容でよろしいと思うが、他の先生の認識はどうだったか。	澤村 (3班) [] (4班)	ラッセルという言葉であったが、かき分けて進むというイメージではなかった。 ラッセルという言葉であったが、かき分けて進むというイメージではなかった。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			島田 (宇東高)	「訓練」という言葉がつくのとつかないのとはイメージが違う。
西村委員	質問	事故当日、積雪はどれくらいであったのか。	菅又 (1班)	樹林帯も割とスムーズに進むことが出来たし、ゲレンデも膝まで雪があったという認識はない。
大西委員	質問	前日の訓練場所はどこか確認したい。 「スキー場周辺」という言葉が出ていたが、どこからどこまでという共通認識はあったか。 無線機は何を使っていたか。 弱層テストの様子について	菅又 (1班)	<ul style="list-style-type: none"> 前日の活動場所は峠の茶屋の尾根上の斜面で行った。全ての班が見渡せる場所で実施した。 「スキー場周辺」と説明したが、はっきりとどこからどこまでの範囲で実施するといった統一した共有認識はなかったと思う。 弱層テストは実施要項の内容の中に記載はないが、その年その年によって実施したりしなかったりである。今回は2日目に簡単に実施した。また、1班の生徒には樹林帯の中でも確認させた。
			猪瀬 (本部)	無線機は、業務用のスタンダードという機種を使っている。(登山専門部所有)
西村委員	質問	少し登り始めたところとあるがどれくらいか	菅又 (1班)	斜度が変わって、ほんの少し登り始めたところである。
		風についての意見がそれぞれの班で違う。(班のいた場所が違うからだと思うが)	全体	吹雪いていたという認識はない。
岸委員	質問	事故が発生直後、無線での連絡がうまく取れなかつたが、スマホが使えなかつた先生方はどれくらいいたか。	猪瀬 (本部)	常に無線を身に付けてはいなかつた。身に付けている以外は宿の部屋のカゴの中、もしくは車の中に置いてある。最後に確認できたのは車の中である。スマホには先生方からの着信はなかつた。
			菅又 (1班)	流された際に、体を木に打ちつてしまい、胸ポケット内のスマホは折れてしまつて使える状態になかつた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			渡辺（2班）	無線を常に使える状態にして活動していた。ザックの中に携帯は入れていた。携帯が事故直後使えたかどうかは分からない。
			小林（5班）	スマホは動かない状態であった。
大西委員	質問	委員長が無線を手にした後は通じていたか。	猪瀬（本部）	通信が途絶えることもあったが、無線機は使って小林先生（5班）と連絡を取り合うことが出来ていた。
大西委員	質問	直接、警察や消防に連絡するという判断は出来なかつたのか。	渡辺（2班）	無線がすぐとれる状態だったので、携帯電話でということは考えなかった。
			小林（5班）	おそらく私が連絡を取れる状態にあったと思うが、あの時は判断できずに本部へ向かってしまった。
戸田委員長	質問	事故当時どうすればよかつたのか、どうしてたら事故は防げたのか、意見をお聞きしたい。	橋本前高体連会長	その場での状況判断が大切である。例年踏襲はいけない。パニックに陥った場合のために幾重にもチェックする危機管理体制を築かなければいけない。組織の中に第三者的な立場で指導助言できる方を入れるべきである。
			植木前専門部部長	例年通りや現場任せだったのがいけなかつた。30年もやってきたんだからという油断があったと思う。計画変更や内容変更があった場合にはチェックする機能をもつ体制にしなければいけない。
			菅又（1班）	状況判断が甘かった。もっと多くの方々に判断を仰いでいればよかつた。
戸田委員長	指示	本日の記録をまとめてもらって、本日の委員4人に送って下さい。4人で確認し、分担して第2回の検証委員会で報告、問題点をそれぞれ指摘させていただく。検証委員会の資料の回答者のお名前は分からないように、講師Aとか、引率B等でよい。		
	指示	大田原高等学校が登山計画審査会に提出した計画書を資料として提出願う。		
	指示	矢板東高の生徒がゲレンデで撮影した写真を資料として提出願う。		
岸委員	指示	県立学校管理規則のデータを用意下さい。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			総務課	了解した。 記録をまとめたものを4人の委員の皆様に送付する。 登山計画書はスポーツ振興課で用意する。 写真については矢板東高にデータを確認する。

5月15日（月）現地調査記録（11:00～12:30）

◎ 猪瀬委員長及び各班講師から当日の行動について説明

○ 猪瀬前委員長

27日朝、7:20くらいに菅又、渡辺と相談し、登山を中止し歩行訓練を行うこととした。

7:30集合で、10:00ぐらいにテント撤収を始めるため、9:30くらいに戻ることとした。

注意事項として、第2ゲレンデの方の斜面は危険であるため、行かないように菅又教諭をはじめ講師に伝えた。生徒には菅又教諭から説明してもらい、各班人員を確認して出発する形となった。

○ 1班：菅又教諭

5時に起床。雪の状態は、積雪15cm程度。小雪がわずかに降っている程度。風はほとんどなかった。

6:15から6:30に猪瀬、菅又、渡辺の3人で本日の行動を確認、出発を7:30に遅らせた。

また、テント撤収に時間がかかることが予想されることから、2日目の講習でやったキックステップによる歩行技術の練習として、スキー場周辺での行動に変更した。

報道等では「ラッセル」となっているが、雪をかき分けて進むものではなく、自分たちで足跡をつけるという意味で「ラッセル」という言葉を使った。

7:30に講師を集め、行動の変更、コースの説明。渡辺教諭からの注意事項として第2、3ゲレンデの奥、リフトの突き当たりのさらに奥は斜面が急で雪崩の危険があることから立ち入らないようにとのことがあったので、その説明をした。

講師打合せ後、生徒にも同様の説明を行った。

7:50行動開始。前日の班別の行動とした。1班は、センターハウスからほぼ真っ直ぐ、横一列で足跡をつけて一本木を目指す。大高は体力があり、あつという間、10分くらいで着いた。視界は一本木の先10から20mだった。一番奥の斜面は見えなかった。一本木到着後休まず、縦一列になり樹林帯へ。大高の2年、1年、毛塚教諭、菅又教諭の順で進んだ。左側の尾根に出るように、尾根を登って行くことにした。しばらく道を探しながら小さい尾根を上がった。しばらくして生徒の一人が足をつりそうになり斜面のところで休憩を入れた。10分程度休憩。

休憩後、出発してすぐに全員に雪の層と状態を確認させた。2日目の講習で行ったハンドテスト、弱層テストの確認。その後、樹林帯を抜けて雪面に出たところで、一旦止まらせた。

その時の視界は、上は天狗の鼻、下はしばらく離れた3、4班が見える状態。視界は良かつた。生徒からもう少し先に行きたいとの話があり、少し進んだ。

平らなところに出て、木のところで目印になるものがあったので、そこで止めた。最初の予定ではここまでと考えていたが、前の方にいた生徒がもう少し進みたいと言ったため、時

間が早かったため、もう少し進むことにした。

角度が急になる斜面の手前で止まって、終わりにしようと言ったが、生徒からさらに進みたいと言われたため、雪の状態、斜面の角度からその時は大丈夫だろうと考え、岩の近くまで行って帰ることにした。

そこから少し進んだところで雪崩が発生。下を見て前を見たところ毛塚教諭とその前の生徒が頭をのけ反らせるような形で覆い被さるようなかたちで巻き込まれた。

斜面の下が頭になり、50cmくらい埋まった。顔は15cmくらい埋まった。右手が動かせたので、顔の雪を払った。背中に入っていた無線に連絡があったが、何もできなかつた。他の班の先生に掘り起こされた。近くにいたメンバーとすぐに生徒の救助活動に入ったが、肋骨5本、肺の損傷のため呼吸ができない状態になり、動けなくなつたため、救助は他の先生にやっていただき、状況やメンバーを確認するなどした。その後搬送された。

田中委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 行ってはいけないとイメージしていたところに印を。
- 2 行動を矢印で。一本木まで① 横に移動したところ② 尾根を登って休憩したところ③さらに上がったところ④ 急な斜面になるところで、ここで終わりにしようとしたところ⑤
- 3 2班がいたところに印を
- 4 3、4班がいたところも同様に。

○2班：渡辺教諭

2班はたぶん最初に出発した。最初は縦一列で渡辺教諭が最後尾。

一本木には1班の生徒1人が早く進んで、数人が続いていった。1班の先頭集団が先に一本木に到着した。新しい雪を踏むのが目的だったので、一本木の右上に着くようにした。そこから横になって新しい雪を踏むことにした。1班が尾根に着くのを確認したため、新しい雪を踏むため1班の1つ奥の尾根少し高くなっているに着くようにした。

随時目印がある木を目指して行くことにして、左の尾根沿いに上がった。体力差があり、先頭と後ろが離れたため、後ろの生徒より2人前位にいて、先頭の生徒に傾斜が変わる手前で待機するよう指示した。遅れた2人を待っていたとき下を見ていた。このとき、スキーフェスティバルを歩いていたときより風が強いことから降りようと考え、風が当たらないところに行こうと考え、後続の2人が追いついてから、手前側に降りてきた。

真高のリーダーが先頭で、渡辺教諭が最後尾で進んだ。その際、一瞬であったが上部で1班が行動しているのを確認。下り始めて数m程度歩いたところ、右側面から雪が当たって右を見たときに、雪崩に巻き込まれた。数mから10mほど流されたと感じた。幸い座り込むような形で止まった。上半身が出ていたので、自力で脱出。振り返ると3、4班は少し高いところにいて人員の確認をしていた。

無線で菅又教諭、猪瀬委員長を呼ぶが応答なし。2班の人員について高秀先生に確認してもらった。二転三転するが、全員確認できた。3、4班も確認できた。

沢筋に流され、第二波がくる可能性があったため、尾根筋に上がるよう指示。沢筋から尾根筋に上がった。反対の沢筋から声が聞こえた。声をかけたが、返事がなかった。この時、1班は歩き続けていて巻き込まれていないと判断していた。自力歩行できない生徒がいたため、いるメンバーで介助しながら下山するしかないと判断した。一人で尾根を少し降りてルートを確認した。ある程度見通しがたったところで戻ったところ、他の顧問が菅又教諭を救出し、他の生徒を救出しているところを目撃した。5班の小林教諭が無線で異常を察知し、レストハウスへ退避行動をとっていると無線で分かった。そこで、小林教諭に救助要請を無線で連絡。

その後、1班の救助に加わり、ストックをゾンデ棒代わりに捜索した。そのうち、猪瀬委員長と交信ができ、救助隊が入ったことなどの連絡、人員の確認などを行った。近くで待機していた教員に笛を吹くように指示。1班の人数、救出する人数を確認し、無線に連絡。救助隊到着前後に2人不明だったが、行方不明なしになった。かなり現場が混乱していた。

救出できた人数と救出している人数を確認し、行方不明なしを伝えた。尾根筋に上がって待機した。現場の状況が分かっているため残って、自力歩行できない生徒3名の最後と一緒に下山した。

田中委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。
- 2 行動を矢印で。一本木の右までのルートに① 上に移動したところ② 上がって止まったところまで（降りる判断をしたところ）③ 降りた方向を④
- 3 1班がいたところに印を

○ 3班：澤村教諭

ゲレンデでは横一列で進んだ。1班の歩いたコースとほぼ同じコースでかぶらないようになした。体力差があり、どんどん遅れた。1班が一本木から林に進入したところで休憩。体力面で不安があったため、1班の作った道を進んだ。

20分から30分くらいしてから平らなところで休憩した。その際時計は8:30だった。

4班もほぼ同じかたちで休憩したため、4班の先生との位進むか打合せをし、もう少し登ってから降りることにした。その後5~10分してから雪崩に巻き込まれて流された。3班は比較的近くにいて、少し下ったところに4班がいた。人数確認し、無事を確認。同時に4班も無事の確認の連絡が無線であった。なるべく高いところへ移動（避難）させた。2班の真高の安否確認の連絡があり、捜索を行ったところ重傷者がいたため、3班へ連れて行き、温かい格好で待機させた。

1班が見つかっていないと連絡があり、登って左側の沢にいると連絡があったため、沢に下りて捜索した。菅又教諭と生徒数名が救出された下を集中的に探したところで続々出てきた。あと2人見つからないというところで救助隊がきた。

田中委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。（青マーカー）
- 2 行動を矢印で。最初のルートに① 休憩して上に移動したところ②（1班の後を追う）、休憩したところ③ その後5分くらい登ったところを④
- 3 1班が見えたところに印を

○ 4班：高秀教諭

集合は 7:30。その時こちら（第2ゲレンデ奥）の方面には立ち入らないようにと説明があった。前日の段階でピッケルやスコップがないという生徒がいたため、装備の点検を行つてから出発したことため、最後になった。

出発後は横一列で一本木まで上がった。最初はゆっくり上がっていたが、体力差があり、宇高はどんどん進み、矢板中央は少し遅れ、隊が間延びした。宇高に一本木で飲み物や体温調節を行わせ、待機させた。

3班のトレースが尾根に向かったので、それに向かった。宇高、先生、矢中の順で進んだが間延びした隊構成になった。急なところから平らになるところで、3班が休憩していた。

3班の3mくらい先で座れるスペースがあったため、宇高の生徒を止めて待機させ、矢板中央を待った。3班出発したとき、澤村先生との位進むか話した。本島教諭が通過したところで矢板中央の生徒が到着。

その後、人の声がしてそちらを見ると雪崩が起こった。トランシーバーで呼びかけたが赤いランプが点滅していたため、使えないと判断し、人員を確認し、4班の無事を把握した。

同じ標高のところに真高の生徒1人が動けないでいた。真高は上部におり、2つに分割された。真高の人数の情報をやりとりして確認。沢筋が危険であることから動けない真高生徒と高いところへ移動するよう指示があり、沢をはさんで反対側の尾根に上がった。誰かに手を貸してくださいと言われ、様子を見ると言ったさらに向こうの沢から手が出ている。3人ほど手が上がっていたので、近くの手のところに行った。菅又教諭の足下をかき分け、自力で出てももらった。沢の上流に向かって行ったところ、木にぶつかって押しつけられている生徒がいて手塚先生と2人で助けた。

下の方にも行くと■先生が掘っていた。片足が埋まっている生徒、さらに下にもいて助けた。その後、近場を掘った。自身は朦朧としていたため、レスキュー到着前後に横になった。レスキューが来るまで、毛塚教諭と生徒1人が見つからなかった。来てから1人息があるので、集中して掘っていた。下山指示があつて下山した。

田中委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。
- 2 行動を矢印で。最初のルートに① トレースしたところ②（3班が通ったところ、1班と同じ、澤村先生と話したところ）

○ 5班：小林教諭

人数の関係で、顧問は1人ということもあり不安であったため、猪瀬委員長に女子の行動を確認。女子は第1ゲレンデを歩けば良い訓練になるとアドバイスをもらった。

男子は一本木を目指して進んでいくのが見えた。第1ゲレンデの斜面を登ることにした。

第1ゲレンデは雪が吹きだまる場所だったのか、雪も膝上まであった。交互に隊を真っ直ぐにしながら進み、第1ゲレンデを登り切ったところで休憩。その時間が8:00だったと思う。雪がかなりあったため、矢板東の女子はスマホで写真、真女の生徒のスマホは寒さで電源が入らず。10分くらい休憩した後、さらに奥まで行ってUターンし、一本木を目指した。

風が正面からあたる感じであり、雪が顔に当たり痛かった。その最中高秀先生だったと思うが、4班男子隊が樹林帯に上がりますと無線が入った。一本木に着いた時には、男子隊は見えなかつた。まだ時間があったため、少し第2ゲレンデを上へ行ったが、女子の体力では厳しいため休憩。この時8:30だった。斜面で座って雑談をしながら休憩していたところ、高秀先生（だったと思われる）から無線で雪崩れました、生徒が巻き込まれましたと連絡が入った。音もなく、雪煙もなかつたが、渡辺教諭から生徒が巻き込まれたようだと緊迫した無線が入つた。二次災害のおそれがあつたため、5班は急いで下山して、テントで待機するよう指示した。一本木過ぎまで見送つて、そこから戻つてヘルプに向かうことにしたが、場所が確認できない上、無線もつながらなかつたため、迷つたが下りてセンターへ。渡辺教諭に無線でセンターへついたと連絡。本部に無線を入れたが応答なし。歩いて本部へ行き、緊急要請をしてくれと渡辺教諭から連絡があり、本部に向かつた。

おおたかに着いたのは9:15頃。車に荷物を積んでいる委員長に会えたので連絡し、警察、消防に連絡してもらった。

田中委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。第2、3ゲレンデの上部
- 2 行動を矢印で。

○救助隊（[]）

連絡を受けたのは9:40前後。10:30頃到着。隊長から説明を受けて向かおうとしたが、雪が膝上まであり、圧雪車でロッジから一本木まで圧雪してもらい現地に向かつた。当時はかなりの吹雪で、視界が悪く20から30m。上に行くほど強くなつた。笛を吹いたが風に流されて聞こえなかつたようだ。笛の音も届かなかつた。足跡も全部消えていた。

山に入ったのは、救助隊2名、警察4名、消防3名。

たまたま10mくらい先で人が手を振っているのが見えた。2、3人埋もれているのが見えた。顔やスパッツが出ていることで確認できた。掘り起こしていたところ、うめき声が聞こえた。2、3人は血の気がなかった。振り動かしても反応なかった。うめき声の方の掘削作業を始めた。話しかけたが返答はなかった。掘っていたら上から足が見えた。

眠りそうだったので、ほほをたたいて、声かけをずっとした。ブルーシートにくるんで、まずはこの人を最初に下ろそうということになった。3人くらいを掘り起こす作業をしていたところ、8人とも発見した。ほかにいないか消防と確認。負傷者は歩けない人から下ろした。センターハウスに下りたところ消防15、16名、自衛隊15、16名いた。

【検証委員会聴取記録】

聴取日:平成29年5月15日(月)13:35~14:50

記録係:山下拡男(学校教育課)

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
戸田委員長	説明	当初の計画を中止し、歩行訓練に変更した経緯、事故発生後の対応、センターハウス前での指示状況、各班の行動及び各引率者の指示や動きなど、これまでの情報から確認しておきたいことについて、質疑を行いたい。		
戸田委員長	質問	まずは気象状況について伺いたい。	上石 (防災研)	低気圧性の雪のため、崩れやすい。崩れやすい雪の層10~20cmの上に更に30~50cmの積雪があった。ふわふわとした雪質で、速度が速い。50cmの層が滑って、300メートル弱流れている。
西村委員	質問	断面観測の結果はどうだったか。	中村	翌日の調査において、22~25cmの層が最弱で、その前後も弱い。積雪安定度は0.57で不安定。通常は1.5か2か4程度が普通。ブッシュゲージ測定。
西村委員	質問	掘っているときに崩れたりしたか。	中村	崩れはしないが、柔らかかった。
大西委員	質問	調査場所はどの当たりか。	中村	標高1350m付近で、救助の行われた1400mよりやや下。1班の行動していた尾根の左横の沢、樹林帯の中で傾斜35度東向き斜面である。
飯田委員	質問	破断面はどうなっていたか。	中村	面発生か点発生かは不明。
西村委員	質問	救助の頃から吹雪き出したが、それによる雪質への影響はどうか。		表面から1.6cmところは日射により固くなっていた。1.5~9cmのところがやや固く、風の影響と思われる。
西村委員	質問	そこは吹きだまるところか。	中村	吹きだましてもおかしくない場所である。
西村委員	質問	2班のルートについて、午前中の内容を確認したい。もう一つ下流側の斜面ではないか。1班のルートから一つ下の尾根ではないか。	渡辺(2班)	おそらくそうかもしれない。1班とは違う尾根だった。(田中委員の手元にある地図で確認)
北村委員	質問	計画変更後の説明時には資料を配付したか。	猪瀬(本部)	そのための資料は作成していないが、教員間で話し合った。
北村委員	質問	悪天候の時用の資料を用意したか。	猪瀬(本部)	そういうことはしてはいない。
北村委員	質問	「スキー場の周辺」というのはどの範囲か、教員は分かっていたのか。	菅又(1班)	説明の際、スキー場の案内板を使って説明した。危険箇所の確認もした。
北村委員	質問	資料はないが、案内板を用いて理解を図ったということか。	菅又(1班)	はい。
北村委員	質問	猪瀬先生も同じか。	猪瀬(本部)	菅又が講師として周知してくれた。
西村委員	質問	案内板には樹林帯も入っていたか。	菅又(1班)	はい。
菊地委員	質問	危険箇所も案内板で説明したのか。	菅又(1班)	渡辺の方から案内板で説明した。
戸田委員長	質問	ビーコンの装備はしなかったのか。	猪瀬(本部)	雪崩の起こりそうな所には行かない講習と考えていたため、ビーコンを装備する感覚はなかった。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
戸田委員長	質問	直接でもよいか、学校保護者に連絡してもよかつたのでは。緊急連絡網など作成していなかつたのか。	猪瀬（本部）	4月の総会時に（教員間の）緊急連絡網を配付している。 当日は警察に通報後に現地に行ったが、（本部として）一人しかいなかつたため、電話の問合せに対応できなかつた。
戸田委員長	意見	体制づくりに問題があつたかと思う。生徒・保護者の携帯（連絡先）に関する消防等からの問合せに、学校（大田原高校）が対応できていなかつた。	猪瀬（本部）	こちらで、誰が無事で誰が被害を受けたか把握しきれなかつたため、学校からの問合せにも答えることができなかつた。 混乱していいたため、無線で入る死亡や病院搬送の情報も学校に流せなかつた。
戸田委員長	質問	名簿はどうなつていたか。緊急連絡先はなかつたのか。	猪瀬（本部）	参加者名簿は作成したが、連絡先の記載はなかつた。
戸田委員長	質問	緊急連絡先はどこにあつたのか。	後藤（さくら高）	学校のパソコンの中に入っている。
戸田委員長	質問	//	猪瀬（本部）	部員名簿の印刷した物はあつた。
北村委員	質問	登山計画書に必要事項を入れて持つて行くべきではないか。	猪瀬（本部）	連絡先までの情報はなかつた。
北村委員	質問	//	菅又（1班）	（連絡先名簿は）各学校にはある。
北村委員	質問	//	猪瀬（本部）	名簿は各学校ごとに持つていて。顧問が持つていて。
北村委員	質問	リーダーが持つているべきだったのでは。本部にはなかつたのか。	猪瀬（本部）	なかつた。
北村委員	質問	パーティーごとの連絡先は持つていたか。	菅又（1班）	名前のみの名簿しか持つていない。
西村委員	質問	参加申込書は持つて行つていなかつたのか。	猪瀬（本部）	本嶋が各校の申込書から名簿を作成した。申込書そのものは持つていない。
大西委員	質問	パーティーごとの名簿が、講師のもとにはいつていないのか。	猪瀬（本部）	連絡先が入つたものはいっていない。
大西委員	質問	学校ごとの計画書は作成されているか。	猪瀬（本部）	作成されている。
大西委員	質問	学校単位の名簿は集めていないのか。	猪瀬（本部）	はい。
北村委員	質問	各パーティーの行動の指示はどうやつたか。先頭は誰か。	菅又（1班）	班により異なる。危険な箇所については、教員が先頭になる。 1班は生徒が先頭で、菅又は最後尾だった。出発前に概要説明した後、途中で止めながら、目印を指示しながら行動を指示。
戸田委員長	質問	2班はどうか。	渡辺（2班）	地形図は出さない。1班と同様に、リーダー生徒が先頭で教員が最後尾。生徒に目印を指示しながら登つた。
戸田委員長	質問	3班はどうか。	澤村（3班）	すぐ上に1班。足場がしっかりしていたので、生徒が前で教員が後ろ。
戸田委員長	質問	4班はどうか。	高秀（4班）	ゲレンデは生徒が前。体力差により生徒の間が離れたため、中間にに入った。
戸田委員長	質問	5班はどうか。	小林（5班）	教員先頭を基本に、ローテーションでゲレンデ内を移動していた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
北村委員	意見	地形図上でここまで行く、ということではなかったか。夏山と同じようなやり方で、危ないから教員が先頭で様子を見て、みんなを呼ぶという形ではなかったか。		地形図上で明確に最初からここまでという形ではない。
北村委員	質問	地形図やコンパスを生徒は持っていたか。	菅又（1班）	持っていたが見てはいない。
北村委員	質問	樹木線は書かれていたか。	菅又（1班）	分からぬ。地形図上でも、自分自身深い尾根が分からぬ状況であった。
田中委員	質問	これまでのことで記憶違いの訂正はあるか。	菅又（1班）	ICU入院中に整理していた。時間については、出発と樹林帯を抜けたのが8:30のところは確かであるが、他はおおよその時間である。
田中委員	質問	渡辺先生はどうか。	渡辺（2班）	時間の正確さは目安程度という以外にはない。
田中委員	質問	菅又先生は「ラッセル」という言葉を使ったか。どういう言葉で説明していたか。	菅又（1班）	ラッセル訓練という言葉を使った。また、昨日のキックステップを使って行うと言った。日程の変更を伝え、9:30には戻る。1時間半の行動にすると伝えた。併せて危険箇所の指示を行った。
田中委員	質問	危険箇所の認識はどうだったか。	菅又（1班）	第1、3ゲレンデの末端。急斜面である。当時は視界不良のため見えていなかった。
田中委員	質問	第1ゲレンデが危険と言ったが、誤解はないか。	菅又（1班）	第1と第2を取り違えていた。今気が付いた。当日は、図で説明していた。
田中委員	質問	途中の岩は活動の想定範囲だったか。	菅又（1班）	樹林帯を抜けた辺りを当初はイメージしていた。生徒の言葉もあり進んでしまった。
田中委員	質問	活動範囲の説明はゲレンデだったのか。	菅又（1班）	スキー場及び樹林帯を使って、と説明した。
田中委員	質問	どこまで登るか決めていなかったのか。	菅又（1班）	そこまでは明確に指示していなかった。
北村委員	質問	キックステップとはどのようなものと認識しているか。普通、急斜面で行うものだと思うが。ラッセルとは、つぼ足のことか、キックステップのことか。	菅又（1班）	キックによりステップを作って登っていくもの。前日の訓練でも、急でない斜面でキックステップを練習した。 当日のゲレンデは膝下半分くらいの雪。歩いてへこんだ所の後について行くの（つぼ足）をキックステップと考えて行っていた。
北村委員	質問	説明上は、ラッセル訓練とキックステップを混同して皆は理解していたようだ。急斜面でやることを想定していたか。	菅又（1班）	急斜面に行こうとは考えていなかった。
西村委員	質問	樹林帯とその上の斜面の積雪状況はどうだったか。	菅又（1班）	樹林帯はゲレンデよりやや深い。その先はまた膝下ぐらいだった。
西村委員	質問	固くなかったか。キックステップは不要な固さだったか。	菅又（1班）	多少固かったが、特に大変なほどではなかった。

【検証委員会聴取記録】

聴取日:平成29年5月15日(月)14:50~

記録係:近藤康弘(学校教育課)

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
戸田委員長	質問	事故当日の状況について 救助等に携わった方々にお話を伺いたい。	(ホテルおおたか)	当日の朝、6:30頃起床、雪がずいぶん降ったという印象。用事があって湯本まで降りて戻ったのが9時頃。雪崩発生と聞いたので、スキー場の中で起きたのだと思った。警察に連絡し救助隊の連絡網を回し、9:30頃現地に到着。現地で聞いたところ、現場が向かいの尾根だということで大変なことになったと思った。自分はヒュッテの辺りで誘導していた。ヒュッテ前も膝くらいまでの積雪。歩くのも困難な状況なのでスキー場の人々に圧雪車を使用することを依頼。後から来た隊員には圧雪したところを登って救助に向かうよう指示。
戸田委員長	質問	スキー場関係の方からもお話を伺いたい。高体連と町との関係は?	高内 章 (那須町観光商工課長)	9:50頃連絡を受け、課長補佐に現地へ向かうよう指示した。今年は雪も少なくスキー場のオープンも遅く、3月20日まで営業していた。「トイレを借りたい」という電話での要請のみを受けていた。
戸田委員長	質問	記録では最初は昭和59年と記載されている。	(ホテルおおたか)	冬山研修をやるんだということで高体連の方が私の所に最初に相談に来た。講習会は3月25日頃なので、3月20日には営業が終了するスキー場がよいのではないかと提案をした。町にも話を聞いており、その後高体連から施設を借りることになったと連絡があった。最初はバス3台くらいでやってくるような大所帯だった。かなり昔から行われていたが、当初から私の所を本部ということで2人くらいの先生方が利用されていた。昭和60年頃の記憶だが、町の職員がトイレのある施設の施錠を行っていた。しかし、3年後くらいからは、同じことをやることなので、その鍵を貸し出すことになった。
戸田委員長	質問	スキー場といったら、どの辺までを指すのか。ゲレンデのみなのか。樹林帯も含むのか。	(那須未来(株))	含まない。ゲレンデのみをスキー場と定義。
戸田委員長	質問	スキー場の安全な利用について、といった啓発はどういうふうに伝えているのか。 高体連関係者に鍵を貸し出す時に、注意喚起を行っていなかったのか。	(那須未来(株))	ゲレンデ内を利用する人に対しての注意喚起、ゲレンデ内のパトロール等を実施することで安全を呼びかけていた。 講習会の中身は知らない。事務的にトイレを貸し出すことしか話を聞いていないので、講習会の内容についても把握していない。 ゲレンデを使うことは把握していなかった。
小島委員 (気象)	質問	30年もやっている行事で、ゲレンデの上まで使っていることを把握していなかったのか。ゲレンデ外まで使用している認識はなかったのか。テント設営地としか考えていなかったのか。	(ホテルおおたか)	ゲレンデの中でやっているのは来た当日ぐらいで、次の日はゲレンデより少し外れて実施し、最終日は頂上を目指していき昼前に戻ってくるという姿を毎年見てきた。 今テントを設営しているのは環境省管轄の所だが、昔は子どもたちがそり遊びをしていたところでテントを設営していた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			(那須未来 (株))	テント設営地から歩いてきてトイレを利用しているということは把握している。
小島委員 (気象)	質問	過去にあの場所で雪崩が発生したことは把握していないか。	(ホテルお おたか)	<p>今回の発生場所での雪崩は、私が小さい頃に数回あったことを把握している。3月中旬以降だったが、その当時は天狗の鼻の下の辺りにはほとんど木が生えていなかった。毎年ではなかつたが地雪崩があつたと記憶している。</p> <p>その後の大きな事故は、昭和44年2月9日にスキー場の斜面で表層雪崩が発生したことだった。その時は高体連のスキーの予選会が行われていて、今回のように前日にたくさん雪が降った。また、その年の3月5日ロープウェーの職員がスキーでゲレンデまで降りる途中、雪崩にあつてしまい亡くなつたことだった。今回発生した場所での雪崩はあまり記憶にない。</p>
			石田 国晴 (那須町観 光商工課主 事)	<p>今回発生した場所は雪崩が起きてもスキー場まで雪が落ちてこない場所である。従つてスキー場では雪崩の発生を把握しにくい場所でもある。</p> <p>今回は入らなかつたが、天狗の鼻の下から雪崩が起きるとだいたい雪がゲレンデに入つていた。</p>
小島委員 (気象)	質問	それは地雪崩で表層雪崩ではなかつたのか。	(ホテルお おたか)	<p>この前のは表層雪崩だが、これまでのは大きな岩が流れたりする地雪崩だった。あの場所(今のゲレンデ)は、スキー場ができる前はスキー愛好家がよく入つていた場所だった。</p>
田中委員 (弁護士)	質問	スキー場が開業している時に、その日の営業をするかどうかを判断していたのは誰か。	(ホテルお おたか)	当時は、スキー場の職員が、朝オーブン前にパトロールをして判断をしていた。
田中委員 (弁護士)	質問	微妙な判断する場合の要素はどのようなものであつたか。	(那須未来 (株))	<p>昭和60年頃から4年間くらいのことを覚えていいるが(今でもそれほど状況は変わらないと思うので)、雪が降り次の日に風が吹くと、天狗の鼻の下に雪庇ができるのでそれが判断の一つ。それから、雪の重さ等も参考にした。雪崩が起きるのは朝方5時か6時くらいなのでその頃には人はおらず、スキー場に雪が流れてくることもなかつた。今回発生した場所は林になつてるのでスキー場には雪崩は落ちてこない。それより斜面に向かって右側の絶壁の方が影響があるのでよく見ていた。それにしても、天狗の鼻の所は雪がついているかを判断するのによいところなので、そこはよく見ていた。</p>
田中委員 (弁護士)	質問	仮に3月27日にスキーをやらせるかどうかという判断をしたとしたら、どのような判断をしたか。	(那須未来 (株))	<p>上が見えなくて吹雪いでいる時にはゲレンデに入れないので鉄則。今回はたまたま27日に雪が降り積もつたが前日は第1ゲレンデの所に土が見えていた位なので、麓にいた我々はそれほど警戒していなかつた。新雪があり上が見えない時には第2・3ゲレンデには人を入れないので基本なので、もし仮に3月27日に営業していたとしても閉鎖していたと思う。</p>

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
田中委員 (弁護士)	質問	引率教員の間でも第2・3ゲレンデには入らないようにしてしまうという判断があつたようだが、上が見えないから怖いのか、上から雪が落ちてくることが予測されるからなのか、どちらだと思うか。	(那須未来 (株))	上から雪が落ちてくるということは先生方はわかっていたので、右側のエリアには立ち入らないようにしようと決めたのだと思う。上面に雪が降ったら町の職員でも行かない。
田中委員 (弁護士)	質問	現場をよく知るスキー場関係の人たちに、これまで他の団体からこのような場所で行事を行うことの可否について問い合わせはなかったか。	(那須未来 (株))	ない。営業期間中は当然使用許可を求めてこない。高体連とは長いつきあいだが、使用許可を求めてきたのはトイレとトイレまでに歩くゲレンデの一部のみ。ゲレンデ上部を使用するのは想定外。
田中委員 (弁護士)	質問	もしも微妙な判断を求められたとしたら町としてはどう対応するのか。	(那須未来 (株))	地元の山岳会や観光商工課に問い合わせるように指示したと思われる。
田中委員 (弁護士)	質問	判断を求めるとしたら誰に求めるべきなのか。	(那須未来 (株))	スキー場の管理者か観光商工課施設係ではないか。
西村 副委員長	質問	一度スキー場を閉鎖している理由は。	高内 章 (那須町觀光商工課長) (那須未来 (株))	職員は異動もありベテランが必ずしもいるとは限らないので、そのような判断はできないと思われる。地元の方ならまだしも、行政で判断するのは難しいと思われる。 雪がさらさら落ちる感じはよくない兆候でそれが見られたから。
小島委員 (気象)	質問	風がどちらの方向から吹くと雪が降りやすいのか。東風の時はどうか。	(ホテルおおたか)	北西。福島で雪が多いと那須町にもたくさん降る。今まで雪が降ると風が吹いていたので雪も飛ばされて残らなかつた。それが今では雪が湿り気を帯び残るようになった。この4~5年で雪質が変わつた。